



(2014年9月取材)

代表取締役 **国中 優治** × ゲスト **板東 英二**

**板東** 国中社長は理学療法士として活躍されているとか。まずは歩みからお聞かせいただけますか。

**国中** 熊本県の出身です。元来スポーツが好きで、中学生まで少年野球に参加していました。その折に腰を痛めて入院し、リハビリでお世話になった理学療法士さんの仕事を見たことが、現在につながっているんですよ。もっともその時はすぐに忘れてしまったんですが、高校時代に進路を考える際、ふと思い出しまして。「スポーツにかかわる仕事で、手に職を付けたい」と、この道を目指すことにし

地元で教員を務め、しばらく経って理学療法士としての研鑽を深めるべく神戸の大学院に入りました。そこで人体の構造について細緻に研究し、主に人が痛みを発する根源などを追究。ご遺体の解剖を通じて、それまでの常識を覆すような発見もあり、貴重な経験となりました。言葉では表現し難い痛みのニュアンスも、突き詰めることでいくつかのパターンを特定することができるようになりましたね。専門知識以上に、「表面よりも事実を見る」という姿勢を養えたことが私にとって大きな収穫だったと思っています。

(株) ISIGN / 歩行リハビリセンター hokoru

熊本県熊本市東区月出2丁目4-41

TEL 096-234-6661 FAX 096-234-6651

URL : <http://www.hokoru.com>

## 医学的見地に基づいたリハビリで 痛みを悩む多くの人々を親身にサポートする

たのです。

**板東** 怪我はお辛い出来事ながら、運命を感じますね。

**国中** 学業修了後は、

す。それは、私のビジネスの根幹を成す理念ともなっているんですよ。

**板東** そうした姿勢やノウハウをもって今は多くの方をサポートされていると。

**国中** ええ。現在、私共ではリハビリに特化したデイサービスやフィットネスを運営し、特に高齢者の方々のサポートに注力しています。今のお年寄りには、私たちが思っている以上に若々しく元気なんです。それで、既存の介護施設には通いたくないという方も、こちらの施設なら行きたいとおっしゃってくれることもあり、これからの団塊シニアのニーズを感じております。「sustainability」——継続できる仕組みを予測的に見出すという構えをモットーに、これからもより良いサポートに努めていこうと思います。

**板東** 本日はありがとうございます。